

聴覚情報処理の仕組みと 応用に関する研究



知的インタフェース工学講座

教授 平原達也

2006年4月に本学に着任。NTT研究所とATRで音声・聴覚工学と人間情報科学の研究開発および研究マネージメントに従事。

研究分野

音響学、聴覚科学・工学、音声科学・工学

研究テーマ

1. 聴覚情報処理メカニズムの解明に関する研究
(聴覚の仕組みの理解を深める科学的研究)
2. 聴覚テレプレゼンスロボットに関する研究
(テレヘッドを用いた遠隔音場伝送システムの研究)
3. 発声障害者の音声コミュニケーション手段の研究
(非可聴超音波を利用した発声補助システムの研究)

SalesPoint セールスポイント

音は物理的な現象ですが、聴覚という神経生理システムで処理され、心理的な表象を生み出すという多面性を持っています。また、音は、情報の受け手でも送り手でもある人間にとって重要な情報伝達メディアのひとつです。本研究室は、私たちの生活や様々な産業と密接に係わりあう「音」の物理的、神経生理的、心理的側面を総合的に把握し、応用することに取り組んでいます。

研究の狙い

高度化する情報通信技術（ICT）を利用した新しい「道具」を創りだすにあたっては、情報の受け手である人間の感覚情報処理特性を知っておくことが肝要です。未解明のことが多く残される聴覚の仕組みを解明しながら、新しい技術や道具を人間に合わせてゆく。この相補的なやり取りを通じて、私たちに違和感の無い音情報を与えるられる道具を創り出すのが狙いです。

ブランドデザイン

本研究室は、音響工学技術を駆使した心理物理学的・神経科学的手法を用いて聴覚系の情報処理メカニズムの理解を深めるとともに、人間の聴覚機能を違和感なく拡張したり、コンピュータの聴覚機能を向上させる新しい情報通信技術の開発を目指しています。

REPORT

